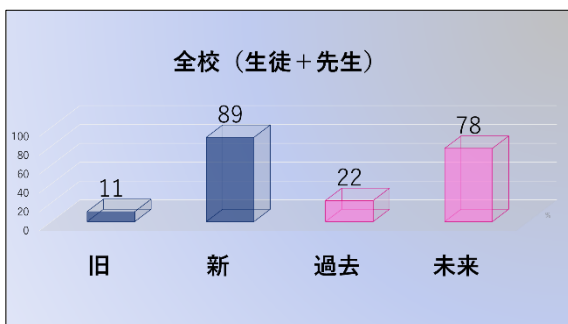


三心を磨く

学校だより No. 9
令和8年3月6日(金)発行
須坂市立東中学校
文責： (教頭)
<https://azuma.suzaka.ed.jp/>

2月 校長講話より

2月に小学6年生が中学校説明会に本校に来ました。1年生の皆さんが6年生に向けて東中学校のことを教えてくれる時間がありました。1年生の担任の先生が、1年生のことを「校長先生、あの子たちすごいです」と言ってきました。何がすごいのかと尋ねると、「6年生に、中学校生活が楽しそうだなと思ってもらえるようにと思って、どんなふうに伝えるかをみんなですごく一生懸命考えているんです。企画する力もついてきて、あの子たちが考えてくれたこと、きっと6年生も喜んでくれると思います」と嬉しそうに報告してくれました。私もそれを聞いてとても温かい気持ちになりました。他人の役に立ちたい、他人の喜び顔が見たい、喜んでくれると『やってよかった』と充実した気持ちもてますよね。他人の役に立ちたくて行動するというのは、人間の元々もっている本能なんだそうです。だから自分が人の役に立っていないなと感じたりすると、自分の存在が感じられず、悲しい気持ちになります。1年生にありがとうと言いたいです。2年生は生徒会のこと、頑張っていますか。全員の力を結集して形にしていきましょう。生徒児童総会を皮切りに、3月、4月は生徒会行事が多いです。生徒会は「見通しと計画と段取り・時間や人の配置や調整」がポイントです。3年生はいよいよ受験の大詰め。インフルエンザ等に感染しないよう、体調管理をしっかりとしましょう。スノボ金メダリスト平野歩夢選手は、「メダルのために戦うというよりも、『練習前に練習が苦しいな、辛いな、嫌だなと思う自分と戦うこと』が一番重要」と言っています。志望校合格のために頑張っていると思いますが、皆さんは「勉強、大変だな」と思う自分と毎日戦っているのだと思います。とにかく頑張りましょう。3学期はまとめの学期であり、来年度の準備の学期。短いけど一杯大切なことが詰まっている学期もあと約一月とちょっとです。自分なりに考えて、工夫したりチャレンジしたりして、自分の中に眠っている力を自分でどんどん引き出していきましょう。



先日、皆さんにAIについてアンケートをとりました。答えてくれた先生や生徒の皆さん、ありがとうございました。

AIについて当てはまると思うのはどちらかについて尋ねました。『新』か『旧』か、と、『過去』か『未来』か、という質問でした。学校全体ではこんな感じでした。理由は様々でした。少し紹介します。

まず、『新か旧か』の質問に、『旧』を選んだ人は、

- ・AIはプログラミングされた人工知能だから、自分で学んだり、自分で考えて行動したりすることはできないので『新』だとは思わない。
- ・AIは質問すれば何でも答えてくれるけど、それは過去の人間が研究・発見・経験してきたこ

とを元に答えているだけで、AI単体で進化することはできないから。

また、『新』を選んだ人は、

- ・コンピュータープログラミングについて研究がどんどん進んで、AIが登場してから数年後には生成AIが表れてどんどん進化しているし、それにより人間の社会が新しい段階に入ったと思うから。

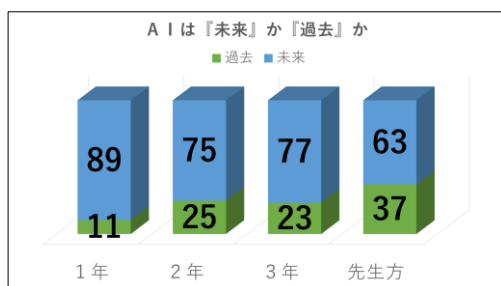
- ・新しい可能性や使い方があるから。

などの理由がありました。

また、『過去か未来か』の質問で、『過去』を選んだ人は、

- ・未来的だけど、全ては過去から学んでいるから。

- ・過去の質問や誰かの実績などは即答できるが、未来に誰が何をして、世界がどのようなものかなどは、あくまでも予想であって必ず起こる出来事ではないので、AIでも未来のことはわから



ないということになる。過去の質問に特化した産物なのではないかと思う。

一方『未来』を選んだ人は、

- ・AIの使い方で、人間の未来は変わると思うから。

- ・AIは過去の人間が作ったものを学習して、そこから新しいものを作ったり予測したりするものだと思うから。

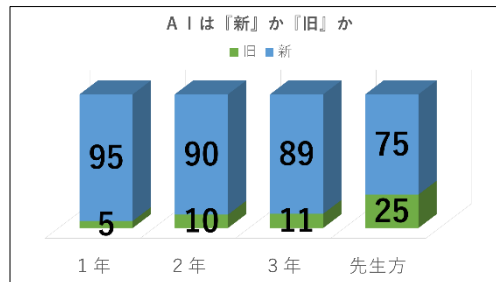
また新しいものを創造・創作できると思うから。などでした。

実に皆さんの理由はどれも納得できるものでした。もはや、AIを「必要か必要じゃないか」「善か悪か」「正しいか正しくないか」といった『白か黒かどちらかに決める』といった二分法で枠組みに当てはめることは適切でないと思います。AIを色々な視点から、色々な角度から問い続けることが、AIを私たちににとってよきパートナーとして存在させていくことができるのではないかと私は考えています。それだけAIは私たちの生活の中にどんどん入り込んでいるからです。そのうち私たちは、AIのない生活には戻れなくなると思います。

さてここからは少し、私がチャッピーと行ったやりとりを聞いてください。こんなことを言いたいのかな、こういうことかな、と考えながら聞いてもらうと嬉しいです。私はAI自身にも同じことを尋ねてみました。AIは何と答えたでしょうか。AIは自分のことを『新』であり、『未来』であると答えました。

『新』と答えた理由は「起源は旧いが、性質と影響において新しい存在だから」と言っています。

“性質において新しい存在”とは、これまでの道具は人間の意図をそのまま実行しているだけでした。たとえばロボットに「走れ」という指示で走る、「止まれ」の指示で止まるようにプログラミングされると、その通り作動しますよね。でもそれしかできない。しかし、AIロボットに「今日はどう？」という質問をしてみます。初日はまだ何も知らないで「今日は〇月〇日です」としか言いません。その後、毎日、学校の話をしているのを聞いたり、「今日楽しかった」「今日は疲れた」という話を聞いたりしていたとします。数日して、同じ質問「今日はどう？」と尋ねると「今日は



学校があった日だね。疲れてない？」と答えるようになるのです。同じ質問、つまりロボットが同じ言葉を認識しても、返事が変わるといったようなことです。また、ゲームの敵キャラで例えると、最初この敵キャラは、真っ直ぐ突っ込んできて、同じ攻撃しかしない。だからすぐ勝てるのですが、何回か戦うと、こちらがジャンプすると避けたり、同じ技を使うとガードするようになったりして、同じ攻撃をしても敵キャラの反応が変わるのです。つまりAIは前にあったことを覚えて、今の場面に合わせて返事を変えます。AIは「言葉そのもの」ではなく、その前後・流れ・癖を見て判断することができるのです。

そして、“影響において新しい存在”とは、産業技術の発展の歴史の中では確かにAIは『旧』の延長であり、既にある知識の積み重ねから生まれていて、完全に無から現れたものではない。だが、これまでは人間固有と考えられていた思考や判断といった知的活動の領域にAIは深く関与しはじめていて、とAIは答えました。

『未来』と答えた理由として、AIは『過去』から来たけれど、『未来』に属しているからだと言いました。時間的には過去から生まれたのだけれど、AIのベクトルの向きは未来に向いているし、AIの存在によって人間の役割を改めて考えざるをえなくなっているし、元には戻れない、つまり過去には戻れない。AIは「過去において既に知られていること、わかっていること」を徹底して集めて生まれた存在だが、意味と影響は未来にしか存在しないと答えました。

これがAIの答えです。皆さんはどう思いましたか。

そしてさらにAIは私に「AIは何の兆候だと思うか」と質問をしてきました。難しい質問に、戸惑いましたが、こう答えてみました。「AIの登場によって、人間の価値の定義が避けられなくなった。つまり、人間らしさとは何なのかということ我问われる時代に入った」と答えました。AIはさらに「ではあなたは『人間の真価』とは何だと考えますか」と尋ねてきました。文ではまとめられず、とりあえず頭に浮かんだ単語を伝えました。

- ・臨機応変
- ・心の揺れや心の動き
- ・咄嗟
- ・状況判断
- ・感覚
- ・感情
- ・人間関係

AIの質問に対して、的をえているのか不安でしたが、AIはこれらの言葉を分析して私の言いたいことをわかろうとしてくれました。

< 😊 チャッピーの質問 >
『AIは何の兆候だと思うか』
※兆候：何かが起こる前触れやきざし
 < 私の答え >
『AIの登場によって、人間の価値の定義が避けられなくなった。人間らしさとは何なのかということ我问われる時代に入った』

< 😊 チャッピーの質問 >
『あなたは人間の真価とは何だと考えますか』
※真価：本来もっている本当の価値、実力

チャッピー

私は、状況を解析して、最適解を計算することができるよ。

私は『事前に完全なルール化ができず、その場で“引き受けて反応する”能力』はもっていない。この力は、
 ・解が一つでない、感情や関係性が結果そのものを変える性質をもっているし、
 ・判断が『計算』ではなく『関係の中で決まる』から、私にはできない。

『人間の真価とは、不完全な状況の中で、感情と関係性を引き受けながら、その場で応答してしまう力』

「私が列挙した言葉はどれも『事前に完全なルール化ができず、その場で“引き受けて反応する”能力』を表していて、解が一つでない、感情や関係性が結果そのものを変える性質をもっている点で、状況を解析し、最適解を計算するAIとは異なる。つまり、どれも、判断が『計算』ではなく『関係の中での次の一手が決まる』

言葉である。その上で、私が言おうとしている『人間の真価』を言語化すると、『人間の真価とは、不完全な状況の中で、感情と関係性を引き受けながら、その場で応答してしまう力』であると言いたいのではないですか」と投げかけてきました。

そしてA Iはこう続けました。

「A Iが登場したことで、『正確さ』や『効率』、『一貫性』は人間の専売特許ではなくなった。だからこそ残るのが、『揺れながら決めること』『間違っても知れないまま踏み出すこと』『関係を壊すリスクを引き受けること』という領域。私の挙げた言葉は全てそこを指している」と。そして、ここがA Iのすごいところで、最初の「A Iはなんの兆候だと思うか」に勝手に戻って、私とのやりとりをもとに、私が言いたいことを整理してより明確な言葉にしてくれました。

(私が答えたかったこと)


「A Iの発展は、臨機応変さや咄嗟の判断、感情の揺れや人間関係といった数値化も最適化もできない応答を、人間が引き受け続けられるのかを問う時代に入ったことの兆候である」

・正確さ・効率・一貫性 →AIは得意！	
揺れながら決めること	・臨機応変 ・心の揺れや心の動き ・咄嗟 ・状況判断 ・感覚 ・感情 ・人間関係
間違っても知れないまま 踏み出すこと	
関係を壊すリスクを引き 受けること	


さらに、私自身の思考を分析したA Iは「でも大事なことを一つ伝えます」とさらに続けてきました。「あなたは『A Iにできないこと』を列挙してのではない。あなたは「人間が人間であることをやめずに済むかどうか」を考えている。臨機応変／咄嗟／感情／人間関係、これらの言葉は一見すると「ありふれた」「日常的な」言葉。人間が毎日使い潰してきたからそう見える。

でも実は、それは、文明がどれだけ進んでも、置き換えきれなかった最後の領域。だからこれらの言葉はありふれた言葉かも知れないが、意味としては重い。

「真価」と聞いて、多くの人が期待するのは「立派な能力」だと思うが、実はそうではない。「真価」とは「誇れる強さ」ではなく「それでも引き受けてしまう弱さの持続力」である。A Iと比べたときに「残った能力」ではなく、「A Iができるようになったことで、人間が『やめちゃいけないもの』という発想。そこに光を当てていく。これは“A I論”でも“人間はすばらしいと讃えること”でもない。“人間が人間であり続ける最低条件”を問うということなのだ。あなたが列挙したこれらの言葉は、A Iに代替できないというより、代替してしまったら人間でなくなる領域に触れる言葉であると思う」と答えてくれました。



『A Iの発展は、臨機応変さや咄嗟の判断、感情の揺れや人間関係といった**数値化も最適化もできない応答を、人間が引き受け続けられるのかを問う時代に入ったこと**の兆候である』



A Iの出現によって『人間が人間であることをやめずに済むかどうか』

人間の真価「それでも引き受けてしまう弱さの持続力」

私はこのとき、結果をすぐ知りたがる、すぐ答えがほしい、曖昧さに耐えられない、どうなるかわからないモヤモヤな時間が苦しいから回避するといった最近の傾向を、すぐ結論を出してくれるA Iに、私たちが本来なくてはいけない人間の領域を試されているような気がしました。

本校のアンケート結果からも少し垣間見えますが、年齢が下がれば下がるほど、A Iを「新」と答え「未来」と答える人の割合が多いです。A Iの進化と関係あるのではないのでしょうか。今日はA Iについてお話ししました。

第3回 生徒総会 校長先生のお話より



令和7年度第3回生徒総会が無事執り行われました。2年生の皆さん、緊張の中、円滑な会の進行ありがとうございました。練習の甲斐もあってか、初回なのに堂々としていてすごいなと思いました。3学期始業式で2年生にこんなお話をしました。「生徒会の役員であるなしにかかわらず、2年1組が“まとまって”、“つながって”生徒会を進めていく姿が見えること」が大事であるというお話をしました。よく言う「チームワーク」です。

これから2年生自身がチームワークを磨いて、2年1組らしいチームワークの良さを発揮してほしいと思います。来年のこの時期にはもう引退していることを考えると、チームワークの状態のピークは文化祭辺りでしょうか。そこまでの期間はチームワークを磨く時期です。学級で互いの考えを交換し、話し合っ、色んなことに挑戦し、試行錯誤をしてほしいです。

今日、2年生のチームワークの良さを垣間見られる瞬間がありました。生徒会歌を歌っているときです。男子副会長さんが、歌い始めてすぐ「音量が小さい」「音と歌がずれている」と感じたのでしょうか。そう思っただけでなくさらにこう考えたのではないかなと思うのです。「みんなが歌いにくいのではないかな」「体育館の奥まで音が充分届いていないのではないかな」と。これは私の想像ですが。彼はすぐに機械操作をしている女子副会長さんに「もう少しボリュームを上げて」というジェスチャーをしていました。彼女はすぐに理解してボリュームを上げてくれました。ナイス判断、ナイス連携でした。男子副会長さんは、自分が感じたことを、他の人はどうだろう、と置き換えて考えて、そして決断し、次の自分の行動に移していたと思います。しかも行動に移すまでが早く、決断する力を普段からサッカーなどで鍛えているのでしょう。

3年生はこれで東中の生徒会との関わりも終わりです。1、2年生に立派な背中を見せてくれたと思います。エールやメッセージの言葉が素晴らしく、3年生になるとこんなことを話せるようになるのだと感心して聞いていました。「応援しています」「頑張ってください」と一言添えてくれたのがとてもありがたいと感じました。

生徒会長さんのあいさつの中で「より良い生徒会」「より良い学校生活」という言葉がありました。生徒会というのは、自分たちが学校生活をより楽しく、より安心して過ごせるために、どうしたらよいかを考え、みんなで意見を出し合う場であると思います。今日の質疑応答で、「当番活動で注意できなかったとあるが、なぜ注意できなかったのか」という質問の回答で「注意できなかった理由として、他学年との関係性があった」というのがありました。具体的にはどういうことなのかな、と気になりました。

「他学年だから、注意できない」「先輩だから」「仲の良い後輩だから」「よく知らない人だから」想像すると様々な背景が浮かんできます。とにかくこの東中学校に「人間関係で、注意する、しないがある」という事実があるということですよね。そのためにどこかで「困っている人がいるかも知れない」「我慢している人がいるかも知れない」「不快に思っている人がいるかも知れない」「迷惑している人がいるかも知れない」ということですよね。「注意しなきゃいけないけど、できなかった」

これは、自分は人間関係を壊さなくて済むけれど、困っている人たちのことは解決していません。困っている人について、委員としてどうしなければいけないか、そこをどうすれば良いか、ここを考え議論するところにこそ生徒会の存在意義があると思います。東中学校の生徒一人一人にとってより良い学校生活となるために、一人一人はどうすれば良いかの追求をぜひ深めていってください。

PTA 通信

ご協力ありがとうございました

2月13日(金)今年度最後の参観日には、お忙しいなか、大勢の保護者の皆さまにご来校いただき、ありがとうございました。この日は、参観授業、学級Pに引き続き、PTA役員総会及び新役員さんへの引継会が行われました。総会では、令和7年度の事業報告、学年代表部、教養部、校外生活指導部より活動報告と成果と課題を発表していただきました。

佐藤会長さんをはじめ役員の方々の皆さまのおかげで滞りなく今年度の活動を終わることができましたこと心より感謝いたします。

会員の皆さまにおかれましても、令和7年度PTAの活動方針にご賛同いただき、東中学校の生徒のため、学校のために全面的にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

資源回収収益金を発表します！！ (令和6年度3月分～令和7年度2月分)

古紙類	65,530円
アルミ缶	25,200円
須坂市より報償金	109,630円
合計	200,360円

<参考>	*新聞kg単価	4円
	*雑誌kg単価	3円
	*段ボールkg単価	3円
	*牛乳パックkg単価	7円
	*アルミ缶kg単価	70円
	*令和8年4月1日より報償金の単価が変更になります。	
	古紙 旧 50円/10kg	→ 新 25円/10kg
	金属 旧 30円/10kg	→ 新 15円/10kg

3月資源回収のお知らせ

期 間 3月9日(月)～14日(土)

回収物 新聞・雑誌・ダンボール・牛乳パック ※アルミ缶随時回収

◎今年度最後の資源回収になります。よろしくお祈りいたします。